

【理学部第二部】

卒業認定・学位授与の方針[ディプロマ・ポリシー]

実力主義を堅持し、優れた専門知識、倫理観、幅広い視野を持った、何事にも粘り強く取り組める理系人材の養成を目標とし、所定の期間在学し、以下の知識、能力を身に付け、各学科ごとに定める所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定し、学士（理学）の学位を授与する。

1. 「一般教養科目」の履修により、社会、文化、環境等の観点から科学の役割と責任を論じることができ、国際的な広い視野と高い倫理観を身に付け、専門分野の枠を超えて横断的にものごとを俯瞰できる能力。
2. 「基礎科目」、「専門科目」の履修によって、理学に関する基礎的な知識と、その上に立つ専門知識。
3. 修得した専門知識や教養をもとに、根本的な問題に対峙した時に創造的な発想を得て問題を探求し、自律的に知的能力を発展させる能力。
4. 修得した専門分野や教養をもとに、他者とコミュニケーションをとり、国際的な視野を持って活躍できる能力。
5. これらの能力を統合的に実践する場として、各学科の卒業研究において、各々の最先端理学における研究を遂行し、論文等での発表を行う。

教育課程編成・実施の方針[カリキュラム・ポリシー]

1. 理学部第二部の理念は本学創設以来の「理学の普及と実力主義」であり、この理念に向かって、夜間の時間帯に「十分な基礎学力の上に高度な専門知識を身に付け、豊かな教養に裏打ちされた強い倫理観と豊かな人間性を持った人材の育成」を行い、各学科ごとに定める人材育成等に関する目的を実現するための学士の教育課程を編成する。
2. 真に実力を身に付けた学生のみを卒業させる「実力主義」の伝統を堅持し、厳格な教育課程を実践する。
3. 段階的な知識の修得を図るため、一般的素養を深めるための「一般教養科目」、各専門分野の基盤をなす「基礎科目」、各専門分野に応じた進路に必要な能力を養うための「専門科目」の3種類の授業科目を体系的に配置する。
4. 「一般教養科目」では、教員、研究者、企業人・公務員等様々な学生の進路に対応できるよう、多彩なカリキュラムと時間割を備え、グローバル化・ユニバーサル化に対応できる幅広い教養を持つ人材を育成するとともに、緻密な論理的思考力を身に付け、情報の収集・発表の方法を学び、多様な価値観を持つ他者と協働で物事を進められるようになることを目標とする授業科目を配置する。
5. 英語教育においては、少人数クラスや習熟度別クラスを取り入れ、学習効果を高める主体的な学びを導く教育を行う。
6. 「基礎科目」では、「基幹基礎科目」、「専門基礎科目」、「関連専門基礎科目」を配置し、かつ、真に基礎的な実力のある学生のみが先端的な専門科目の履修ができるよう、1年次から2年次への進級に対して履修が不可欠な専門科目を配置する。
7. 「専門科目」では、講義の他に、多くの演習・実験で習得した能力をベースに、さらに専門知識を深化させ、併せて他の授業科目との関連や学問探求の方法を学び、問題発見・解決能力の育成を図る。
8. 「一般教養科目」、「基礎科目」、「専門科目」では、各専門分野に応じたキャリア教育、倫理観を養う内容を含む科目を配置する。
9. 学士課程の集大成として、最終年度に卒業研究を配置する。
10. 夜間学部の多様な学生層に対応するため、専門分野を超えて、幅広く関心のある科目を履修できるよう多彩な科目を用意するとともに、他学部、他学科間の履修も可能とし、学生の勉学意欲の向上を図り、多様な学習ニーズに応える教育課程とする。
11. 演習・実験科目では、理学に必要な能力の習熟に加え、レポートやプレゼンテーションを行い、自らの意見を正確に他者に伝える技術を培う。
12. 大学院科目の先行履修も可能とすることにより、勉学意欲の高い学生の要望にも答えられる形にする。
13. 教員を目指す学生のために、理学部第一部との授業相互乗り入れ制度も導入し、4年間で教職課程を履修できるカリキュラムを実施し、未来の教育者をバックアップするため、卒業後の再教育の場を提供する。

入学者受入れの方針[アドミッション・ポリシー]

建学の精神と実力主義の伝統に基づき、本学の教育理念のもと、

1. 高等学校段階までの理系系に必要な基礎知識、思考力、判断力、表現力を備え、専門分野の学習に必要な学力を有する人。
2. 多様な価値観と目的意識を持つ幅広い年齢層の様々な学友とともに、勉学や生き方を学び、豊かで活気溢れる大学生活を送ることができる人。
3. 勉学と職業を両立させ、経済的に独立していく意欲があり、人間力・学士力、国内外で活躍できるコミュニケーション能力を積極的に身に付ける意思のある社会人。
4. 自らの考えを表現する力を備え、主体的に多様な人々と協働して学ぶ意欲のある人。

以上のような人物を下記の多様な選抜方法により広く求める。

【入試形態ごとの入学者に求める能力と、その評価方法】

(A 方式入学試験)

幅広い科目に対する基礎知識と思考力、判断力を持つ人を大学入学共通テストの得点を用いて選抜する。

(B 方式入学試験)

各学科の特性に見合う基礎知識と、それを応用する能力、思考力、判断力を持つ人を選抜する。

(学校推薦型選抜(指定校制)、学校推薦型選抜(公募制))

高等学校までの基礎知識と思考力、判断力、表現力を持ち、理学を学ぶことに対しての意欲が高く、夜間学部に入学者の明確な目的意識を有する人を、書類審査、面接、口頭試問、小論文等により選抜する。

(社会人特別選抜入学・編入学試験)

社会人として得た多くの貴重な経験を有し、それに基づく判断力、思考力、学問に対する姿勢や考え方をもち、目的意識をもって自ら学ぶ意欲のある人を、書類審査、面接等により選抜する。

(帰国子女入学者選抜)

海外の勉学環境で得た様々な経験や、国内の勉学環境では得られない様々な能力、意欲を有する人を、大学入学共通テストの成績、書類審査、面接等で選抜する。

(一般編入学試験)

これまでに打ち込んできた学問に真摯に向き合った結果、方針転換を考え、自分に合う学問として改めて理学を学びたくなった人や、数学・情報・理科の教員免許を取得して教員になりたい人で、勉学に対する強い意欲を持ち、夜間学部入学に関して明確な目的意識を持つ人を選抜する。